

ビオトープのエコアップに向けた植生管理

令和4年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：湧水・汽水の混在する湿地ビオトープの水域および植生管理計画策定

研究代表者：総合政策学部 教授 辻 盛生

課題提案者：三陸自然学校大槌

研究メンバー：島田 直明・臼澤 良一（三陸自然学校大槌）

技術キーワード：水辺ビオトープ、水管理、湿地環境の拡大

▼研究の概要（背景・目標）

湧水群が存在する大槌駅南側に「郷土財活用湧水エリア」としてビオトープが創出された。しかし、創出された湿地（湿性園地）を維持する水分供給が不足し、降水量の少ない時期には乾燥が進む状況にある。ここでは、湧水の導水経路の工夫で湿地環境の創出を試行すると共に、十分な水が確保できない湿性園地については、「郷土の森」として地域に自生する樹種を選定し、郷土財にふさわしいビオトープ創出のための構想を検討した。

▼研究の内容（方法・経過）

- ・2022年5月22日に、湿性園地3脇の湧水から湿性園地1への導水（導水A）を実施。
 - ・2022年11月13日に湿性園地4への導水（導水B）に切り替え。
 - ・湿地環境の創出が困難な場所が残る。植生は草本が中心で木本が見られない。
- ⇒現地に自生する岩手県産の苗を植栽し、「郷土の森」とする構想に。



番号が振られた箇所が「湿性園地」。湿性園地3の脇にある井戸から導水を実施（赤矢印）。

図1 大槌町郷土財活用湧水エリア

▼研究の成果（結論・考察）

- ・湿性園地3・5に創出された水域には、自生のミズアオイが開花した（写真1）。
- ⇒日本ビオトープ協会の「環境活動推進賞」に選定。
- ・導水した湿性園地には湿地環境が創出され、湿性植物が生育（写真2・3・4・5）。
 - ・湿地環境の創出が困難な場所への対処として、木本植物の植栽による「郷土の森」を創出する構想に。
- ⇒「イオン環境活動助成」に採択。植栽位置の現地での確認作業と植栽計画を作成。次年度の植栽に期待。



写真1 ミズアオイ観察会



写真2 創出した湿地の湿性植物



写真3 乾燥が進む湿性園地4



写真4 湿性園地4への導水状況



写真5 創出された湿地環境